

第6節 市の地理的、社会的特徴

国民保護措置の実施にあたり、考慮しなければならない市の地理的、社会的特徴について記載する。

1 地 勢

(1) 位置・面積

本市は愛知県の西部、東経136度47分41秒から137度3分50秒、北緯35度1分50秒から35度15分26秒に位置し、本州中央部の濃尾平野に位置している。

南は伊勢湾に面し、北は春日井市、東は日進市、西は蟹江町や七宝町などに接している。

面積は326.45km²(愛知県の面積の約6%)で、最大距離は東西24.53km、南北25.09kmとなっている。

(2) 地 形

本市は、緩やかな東高西低の地勢となっており、地形は、東部の丘陵地、中央部の台地、北・西・南部の沖積地の、大きく3つに分かれる。

東部(守山・千種・名東・天白・緑区)は、市域の東北端にあたる東谷山(198.3m)を最高所として、標高50～100m程のなだらかな丘陵が続き、三河の山地につながっている。現在では、住居地あるいは文教地区となっている。

市の中央部(中・東・昭和・瑞穂区と南・熱田区の一部)は、北から南にかけてなだらかに傾斜する、標高10～15m程の平坦な台地に立地している。商業・住宅地として、中心部では再開発が進められている。

北・西・南部(北・西・中村・中川・港区と熱田・南区の一部)は、河川の堆積作用によって形成された沖積地で、最も低い所で海拔－1.76mとなっており、市域の北・西部の低地では、市の人口増加とともに市街地化が進み、工業用地確保のための埋め立ても行われ、名古屋港付近は工業地帯となっている。

(3) 河 川

市域内を流下する河川としては、北から南にかけて流れる庄内川(一級河川)系と、東から南にかけて流れる天白川(二級河川)系に代表されるものと、これらにつながる準用河川がある。

2 気 候

名古屋の気候は、太平洋岸の他の大都市にくらべて、比較的厳しい特性をもっている。これは本市が伊勢湾に面してはいるが、外洋から離れているため黒潮の直接の影響をほとんど受けず、むしろ内陸性に近い気候になっているからである。

冬季は夜間から明け方にかけての冷え込みが厳しく、最低気温は東京、大阪に比べて低い。逆に夏は暑さが厳しく、最高気温が35℃を超える日が、平年で6～7日もあつて、全国でも有数な酷暑都市である。

伊勢湾周辺は全国的にみて雨量の少ない地域で、名古屋の年間日照時間は他の大都市より多い。しかし、冬季は比較的雲が多く、関東平野はもちろん、愛知県内でも、三河平野に比べて晴天の日が少ない。これは北西から西方にかけて、広大な濃尾平野を隔てて1,000m級の伊吹、養老、鈴鹿の山脈があるのみで、しかも若狭湾と伊勢湾を結ぶ線が本州で最も狭く、僅か120～160kmの近距離で日本海に通じており、このため雲の多い日本海側の気象の影響を受けやすいからである。この点で、名古屋の冬の気候は太平洋側型のなかに日本海側型の気候もおびているといえる。

降水量は太平洋側型になっており、月降水量の変化からみると、梅雨期の6～7月と、台風や、秋の長雨時期の9月に、ほぼ同じくらいの降水量のピークが見られる。近畿以西の西日本では前者の方が、また関東以東の東日本では後者の方がそれぞれ多くなっており、降水量についていえば、名古屋は東西日本の中間型といえることができる。

(表2：気温、湿度、降水量、日照時間)

年 月 別	平均気温	平 均 最高気温	平 均 最低気温	平均湿度	平均風速	降水量	日照時間
	℃	℃	℃	%	m/s	mm	時間
平成16年	16.8	21.7	12.7	67	3.1	1 947.5	2 209.6
1月	4.3	9.1	0.2	63	3.3	18.5	206.5
2月	6.2	11.5	1.6	63	3.2	40.5	179.6
3月	9.1	14.7	4.1	59	3.3	71.5	205.7
4月	15.6	21.8	9.9	55	3.4	88.5	247.5
5月	20.0	24.6	16.1	73	3.0	227.5	166.7
6月	24.0	28.5	20.4	71	2.9	186.5	164.6
7月	28.6	33.7	24.8	66	3.2	64.0	236.0
8月	27.5	32.1	24.1	70	3.2	114.0	166.1
9月	25.0	29.7	21.8	75	2.8	450.5	127.9
10月	18.3	22.8	14.6	71	2.9	489.5	151.0
11月	14.1	19.0	10.2	68	2.5	94.5	181.0
12月	8.6	13.3	4.6	65	2.9	102.0	177.0

※ 最高気温は37.5℃(7月28日)、最低気温は－3.3℃(1月22日)

3 人口分布

(1) 全体人口

本市の人口は、高度成長期における産業の発展にともなう人口の都市集中や隣接市町村の編入による市域の拡大により増加してきたが、昭和40年代以降、産業構造の変化、都市の過密化等から周辺地域への人口流出現象が始まり、平成5年から平成8年度まで、人口は減少傾向にあった。しかし、平成9年度以降、再び人口が増加し始め、平成12年10月1日に実施された国勢調査によると、人口は約217万人となっている。

区別の内訳をみると、中川区及び緑区では、人口が20万人を超えているのに対し、東区、中区、熱田区は7万人未満となっているなど、区別の人口格差は広がっている。

(2) 昼間人口

平成12年10月1日に実施された国勢調査の結果によると、本市は地域の中核都市として、昼間には周辺市町村から多数の通勤通学者が流入するとともに市内の人口移動もあり、都心部に位置する中区では、昼間人口が夜間人口の約5倍となる。

(3) 高齢者等

本市における、65歳以上の高齢者の人数は、平成12年10月1日現在で約34万人となっている。

また、外国人登録法により登録されている外国人の人数は、平成16年12月末現在で約5万8千人となっている。

(表3-1：区別の人口等)

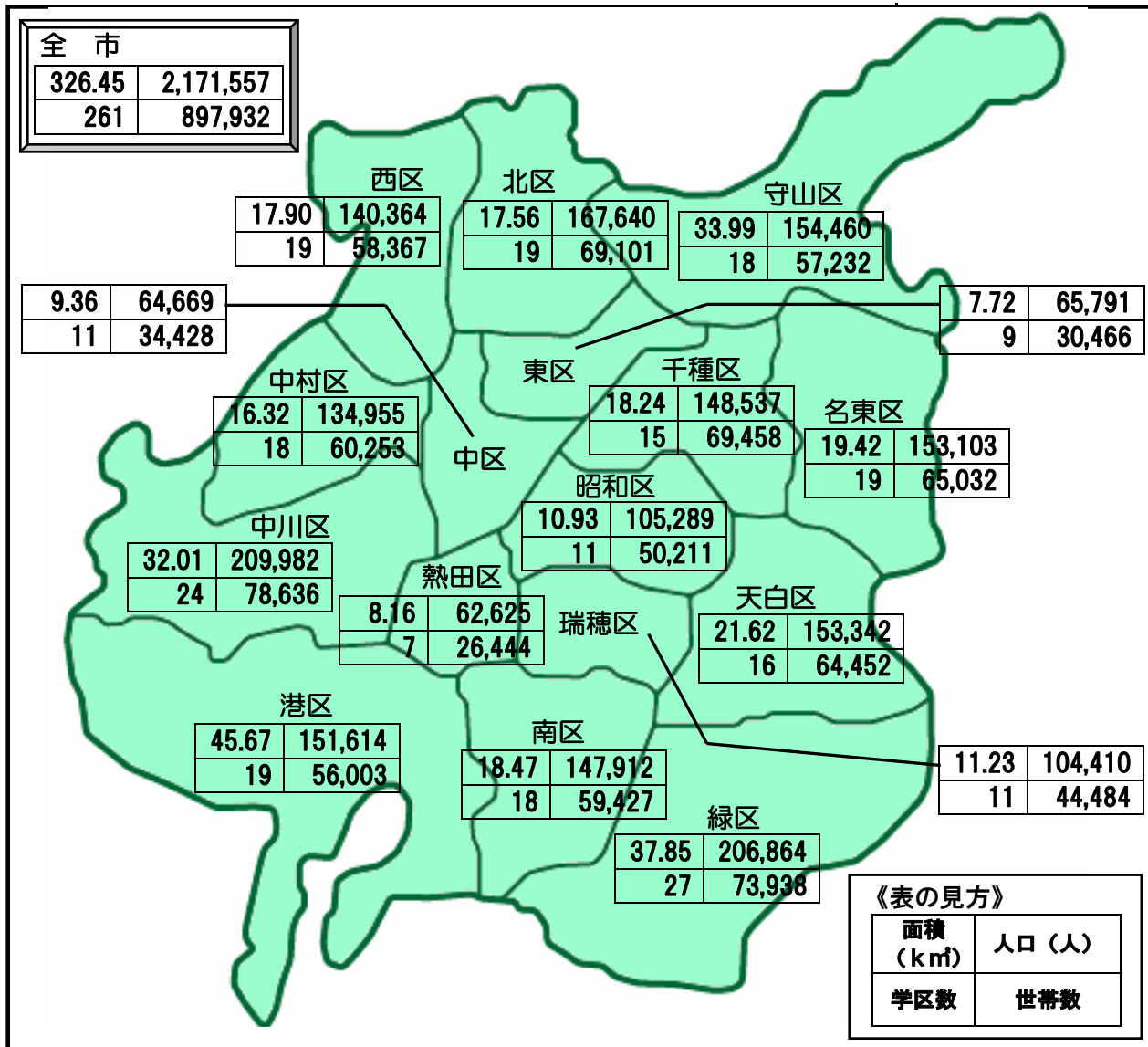
(平成12年10月1日時点)

年月日	面積	世帯数	人 口			人口密度 (/1km ²)	65歳以上の人口			
			総数	男	女		総数	男	女	構成比
名古屋市	326.45	897,932	2,171,557	1,081,094	1,090,463	6,652	338,795	144,325	194,470	15.6
千種区	18.24	69,458	148,537	73,209	75,328	8,143	25,410	10,317	15,093	17.1
東 区	7.72	30,466	65,791	31,824	33,967	8,522	11,514	4,564	6,950	17.5
北 区	17.56	69,101	167,640	82,081	85,559	9,547	28,913	12,223	16,690	17.2
西 区	17.90	58,367	140,364	69,794	70,570	7,842	23,399	9,995	13,404	16.7
中村区	16.32	60,253	134,955	67,376	67,579	8,269	27,527	11,860	15,667	20.4
中 区	9.36	34,428	64,669	31,207	33,462	6,909	10,993	4,291	6,702	17.0
昭和区	10.93	50,211	105,289	52,858	52,431	9,633	18,342	7,511	10,831	17.4
瑞穂区	11.23	44,484	104,410	50,686	53,724	9,297	19,544	8,156	11,388	18.7
熱田区	8.16	26,444	62,625	30,907	31,718	7,675	11,929	5,009	6,920	19.0
中川区	32.01	78,636	209,982	104,628	105,354	6,560	31,648	13,726	17,922	15.1
港 区	45.67	56,003	151,614	76,723	74,891	3,320	21,271	9,234	12,037	14.0
南 区	18.47	59,427	147,912	75,521	72,391	8,008	26,399	11,481	14,918	17.8
守山区	33.99	57,232	154,460	77,186	77,274	4,544	21,786	9,476	12,310	14.1
緑 区	37.85	73,938	206,864	102,792	104,072	5,465	25,061	11,114	13,947	12.1
名東区	19.42	65,032	153,103	76,105	76,998	7,884	17,540	7,587	9,953	11.5
天白区	21.62	64,452	153,342	78,197	75,145	7,093	17,519	7,781	9,738	11.4

※名古屋市を除く指定都市(札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市の12都市)の平均人口密度は、4,435人/1km²となっている。

(表3-2: 区別の特徴)

(平成12年10月1日時点)



(表3-3: 区別常住人口、昼間人口の推移)

区別	平成12年10月1日				平成7年10月1日			
	常住人口	昼間人口	流入超過	昼夜間人口比率	常住人口	昼間人口	流入超過	昼夜間人口比率
全市	2,148,949	2,514,549	365,600	117.0	2,144,334	2,543,481	399,147	118.6
千種区	147,390	165,941	18,551	112.6	148,702	171,247	22,545	115.2
東区	64,957	117,782	52,825	181.3	65,722	124,096	58,374	188.8
北区	166,324	148,957	△ 17,367	89.6	170,144	150,301	△ 19,843	88.3
西区	138,086	148,545	10,459	107.6	138,509	152,397	13,888	110.0
中村区	134,745	239,614	104,869	177.8	140,228	248,032	107,804	176.9
中区	59,409	331,186	271,777	557.5	61,706	344,480	282,774	558.3
昭和区	104,093	120,629	16,536	115.9	103,968	121,258	17,290	116.6
瑞穂区	103,257	106,497	3,240	103.1	105,949	112,145	6,196	105.8
熱田区	62,063	89,426	27,363	144.1	64,809	98,636	33,827	152.2
中川区	207,492	188,005	△ 19,487	90.6	205,934	185,371	△ 20,563	90.0
港区	151,317	173,527	22,210	114.7	150,140	175,989	25,849	117.2
南区	147,658	146,864	△ 794	99.5	154,163	150,872	△ 3,291	97.9
守山区	153,617	126,729	△ 26,888	82.5	148,582	121,047	△ 27,535	81.5
緑区	205,510	154,940	△ 50,570	75.4	190,496	142,318	△ 48,178	74.7
名東区	151,128	125,593	△ 25,535	83.1	151,448	122,809	△ 28,639	81.1
天白区	151,903	130,314	△ 21,589	85.8	143,834	122,483	△ 21,351	85.2

(表 3－4：国籍別外国人登録人員)

(平成16年12月末時点)

区分	総数(人)	主な内訳					
		アジア	北アメリカ	南アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア
名古屋市	58,077	47,374	1,709	6,352	1,650	406	586
指定都市平均 (名古屋市を除く。)	33,198	29,313	1,085	1,252	1,069	163	315

《指定都市》札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市の12都市

4 鉄道、道路等

(1) 鉄 道

本市は、名古屋駅を中心に、東海道新幹線や東海道本線、関西線、中央本線といった、日本を東西に結ぶ鉄道の結節点となっている。また、中部地方における主要都市として、JRや名鉄、近鉄といった私鉄のほか、地下鉄も整備されるなど鉄道網も発達している。

平成17年に実施した地下鉄交通量調査によると、11月17日時点の本市の地下鉄駅乗降人員合計は2,307,500人で、JR、名鉄、近鉄、地下鉄東山線等主要な鉄道の結節点となる名古屋が最も多く332,904人、次いで、地下鉄東山線及び名城線、名鉄瀬戸線の結節点となる栄が216,214人、以下、JR、名鉄、地下鉄名城線及び名港線の結節点となる金山が129,816人、地下鉄東山線及び鶴舞線の結節点となる伏見が100,829人となっている。

なお、これら4つの駅が、国民保護法上の生活関連等施設に該当することになる。

(2) 港 湾

本市には、五大港の一つである特定重要港湾の名古屋港(水域面積(8,263ha))がある。名古屋港における外国貿易額は、港別外国貿易額で全国一であり、全港外国貿易額に占める割合は、平成16年度ベースで約1割となっている。

なお、名古屋港は、苫小牧(仙台経由)及び那覇(大阪経由)行きのフェリーの起点となっておりとともに、物流としては、東京行きの内航海運のほか、中南米航路、バンコク航路、台湾航路、韓国航路、中国航路といったコンテナ船の航路の起点になっている。

(3) 空 港

愛知県には、中部国際空港及び県営名古屋空港があり、本市は、それらの空港へのアクセスの拠点となっている。

(4) 道 路

鉄道と同様、道路についても、本市は、東名高速道路や東名阪自

動車道、一般国道1号、23号といった、日本を東西に結ぶ道路の結節点となっている。また、中部地方における主要都市として、一般国道19号、22号、41号、153号といった道路の結節点になるとともに、名古屋高速を介して、中央自動車道、名神高速道路、東海北陸自動車道に接続するなど、交通の要所となっている。

(表4-1：本市を通る主な鉄道)

事業者名	路線名	区間等	営業キロ
JR東海	東海道新幹線	東京(東京都千代田区) ～ 大阪(大阪府大阪市)	552.6
	東海道本線	東京(東京都千代田区) ～ 神戸(兵庫県神戸市)	589.5
		(主な駅) 大高(緑区)、笠寺(南区)、熱田(熱田区)、金山(中区)	
	中央西線	名古屋(名古屋市中村区) ～ 塩尻(長野県塩尻市)	174.8
		(主な駅) 金山(中区)、千種(千種区)、大曾根(東区)、新守山(守山区)	
	関西線	名古屋(名古屋市中村区) ～ JR難波(大阪府大阪市)	186.2
		(主な駅) 八田(中村区)、春田(中川区)	
名鉄	名古屋本線	豊橋(愛知県豊橋市) ～ 新岐阜(岐阜県岐阜市)	99.8
		(主な駅) 鳴海(緑区)、神宮前(熱田区)、金山(中区)、名鉄名古屋(中村区)	
	常滑線・空港線	神宮前(名古屋市中村区) ～ 中部国際空港(愛知県常滑市)	33.5
		(主な駅) 大江(南区)、大同町(南区)	
	犬山線	枇杷島分岐(愛知県清洲市) ～ 新鵜沼(岐阜県各務原市)	26.8
		(主な駅) 東枇杷島(西区)、上小田井(西区:地下鉄鶴舞線乗入れ)	
	瀬戸線	栄町(名古屋市中区) ～ 尾張瀬戸(愛知県瀬戸市)	20.6
		(主な駅) 大曾根(東区)、小幡(守山区)、喜多山(守山区)	
	小牧線	上飯田(名古屋市中区) ～ 犬山(愛知県犬山市)	20.6
		(上飯田で地下鉄上飯田線乗入れ)	
近鉄	名古屋線	赤池(愛知県日進市) ～ 梅坪(愛知県豊田市)	15.2
		(赤池で地下鉄鶴舞線乗り入れ)	
地下鉄	東山線	近鉄名古屋(名古屋市中村区) ～ 伊勢中川(三重県松阪市)	78.8
		(主な駅) 黄金(中村区)、近鉄八田(中村区)、戸田(中川区)	
	東山線	藤が丘(名古屋市中村区) ～ 高畑(名古屋市中川区)	20.6
	名城線	大曾根(名古屋市中村区) ～ 大曾根(名古屋市中村区)	26.4
	名港線	金山(名古屋市中村区) ～ 名古屋港(名古屋市中村区)	6.0
	鶴舞線	上小田井(名古屋市中村区) ～ 赤池(愛知県日進市)	20.4
		(上小田井で名鉄犬山線に、赤池で名鉄豊田線に乗り入れ)	
	桜通線	中村区役所(名古屋市中村区) ～ 野並(名古屋市中村区)	14.9
名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)	上飯田線	上飯田(名古屋市中村区) ～ 平安通(名古屋市中村区)	0.8
		(上飯田で名鉄小牧線に乗り入れ)	
愛知高速交通(東部丘陵線)	名古屋線	名古屋(名古屋市中村区) ～ 金城ふ頭(名古屋市中村区)	15.2
		(主な駅) 荒子(中川区)、荒子川公園(港区)、野跡(港区)	
愛知高速交通(東部丘陵線)	東部丘陵線	藤が丘(名古屋市中村区) ～ 八草(愛知県豊田市)	8.9

(表4-2：空港の所在地等)

空港名	面積	滑走路	所在
中部国際空港	約470ha	3500m 1本	常滑市
県営名古屋空港	約165ha	2740m 1本	西春日井郡豊山町

(表4-3：本市を通る主な道路)

路線名		区間等		延長(km)
東名自動車道		愛知県小牧市	～ 東京都世田谷区	346.7
東名阪自動車道		名古屋市中川区	～ 三重県亀山市	81.9
知多半島・南知多道路		名古屋市緑区	～ 愛知県知多郡南知多町	40.5
名古屋高速道路	高速1号	名古屋市中川区	～ 名古屋市千種区	13.5
	高速1号四谷高針線	名古屋市千種区	～ 名古屋市名東区	3.6
	高速2号	名古屋市北区	～ 名古屋市緑区	20.6
	高速分岐2号	名古屋市西区	～ 名古屋市東区	2.2
	高速分岐3号	名古屋市中川区	～ 名古屋市昭和区	2.3
	高速名古屋小牧線	名古屋市北区	～ 愛知県小牧市	8.2
一般国道1号線		東京都中央区	～ 大阪府大阪市	565.4
一般国道19号線		名古屋市熱田区	～ 長野県長野市	266.4
一般国道22号線		名古屋市熱田区	～ 岐阜県岐阜市	37.0
一般国道23号線		愛知県豊橋市	～ 三重県伊勢市	177.0
一般国道41号線		名古屋市東区	～ 富山県富山市	252.1
一般国道153号線		名古屋市東区	～ 長野県塩尻市	213.3
一般国道247号線		名古屋市熱田区	～ 愛知県豊橋市	151.3
一般国道302号線(一部不通区間あり)		名古屋市中川区	～ 名古屋市中川区	54.0

(表4-4：名古屋高速道路等で接続する主な高速道路)

路線名	区間等		延長(km)
中央自動車道	愛知県小牧市	～ 山梨県大月市	273.4
名神高速道路	愛知県小牧市	～ 兵庫県西宮市	189.5
東海北陸自動車道	愛知県一宮市	～ 岐阜県高山市	117.2
名古屋高速(高速清洲一宮線)	愛知県清須市	～ 愛知県一宮市	8.2

5 自衛隊施設

本市には、自衛隊施設として、守山区に陸上自衛隊守山駐屯地(第10師団司令部、第35普通科連隊)が、中川区に愛知地方協力本部がある。

なお、名古屋市に近接する市町村にある自衛隊施設としては、陸上自衛隊春日井駐屯地(春日井市)、航空自衛隊高蔵寺分屯基地(春日井市)、航空自衛隊小牧基地(小牧市)がある。

6 石油コンビナート等特別防災区域

本市では、名古屋港臨海地区(港区及び南区にまたがり約6km²)が、石油コンビナート等災害防止法(昭和50年法律第84号)第2条第2項に基づき、石油コンビナート等特別防災区域に指定されている。

7 地下街

本市内の地下街の面積は、東京、大阪に次ぐ規模で約17万m²あり、開設時期は、概ね、第1期(昭和30年代)、第2期(昭和40年代)、第3期(昭和50年代)の3期に分類される。

名古屋地下街(サンロード)は、地下鉄の上に造られた日本で初めての地下商店街として昭和32年3月に建設された。

地下街は、人と車の流れを分離し、交通事故の防止や激増する駅前の交通を円滑にするという大事な役割も担っている。

(表7：名古屋市にある地下街)

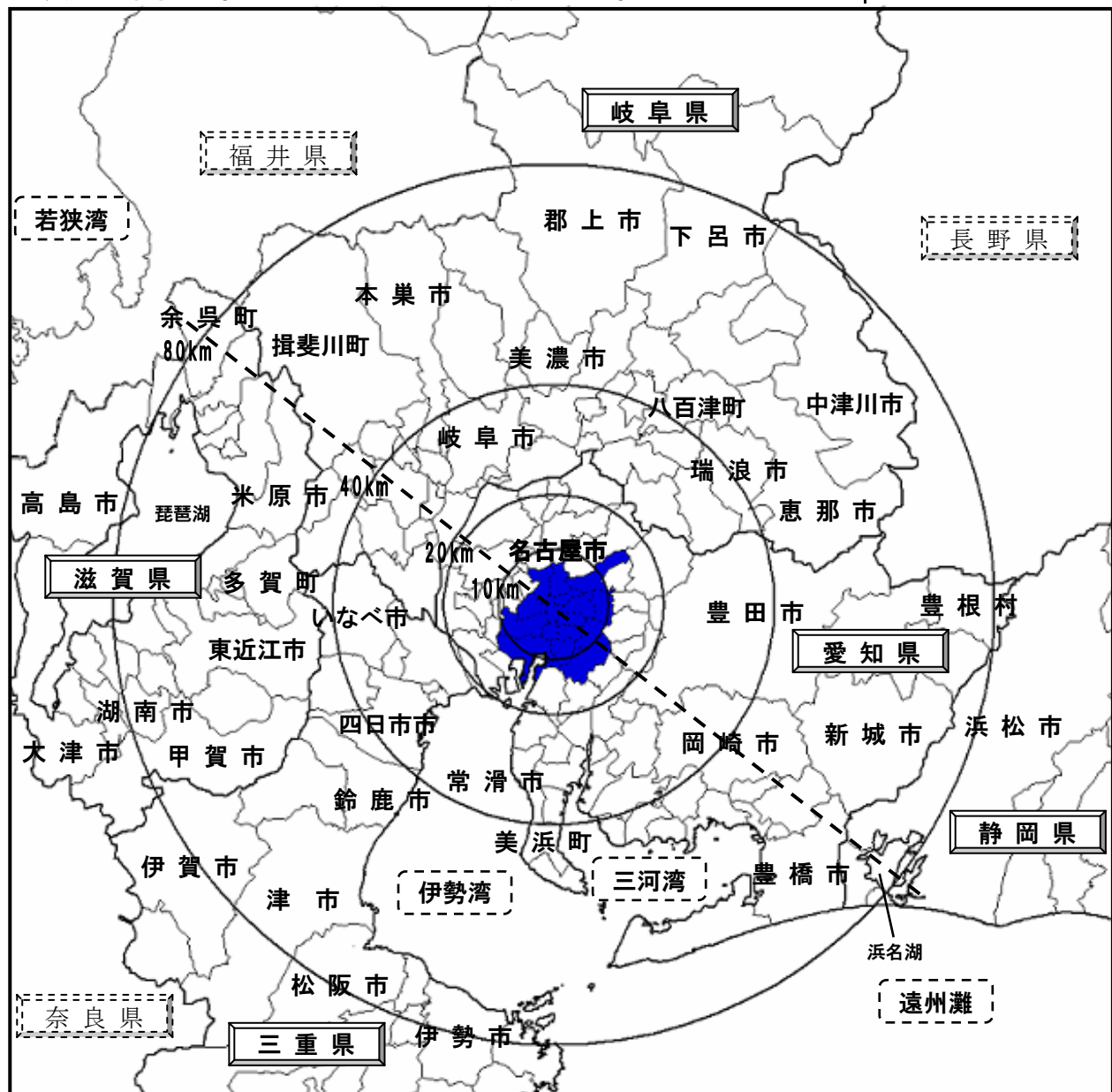
名 称	面積(㎡)
名古屋駅前地区地下街	53,329
名古屋地下街	11,347
地下鉄名古屋駅地下街	1,967
新名フード地下街	712
ミヤコ地下街	3,600
大名古屋ビル地下街	897
ユニモール	27,364
テルミナ地下街	7,374
中部近鉄百貨店	68
新幹線地下街エスカ	29,180

名 称	面積(㎡)
栄地区地下街	81,614
地下鉄栄地下街	10,993
サカエチカ	14,251
セントラルパーク	56,370
地下鉄金山地下街	706
伏見地下街	2,712
地下鉄今池地下街	745
地下鉄千種名店街	531
地下鉄上前津地下街	705
合 計	169,522

8 その他

名古屋市役所を中心として、半径10km、20km、40km、80kmで同心円を描くと、以下の図のようになる。

(表8：名古屋市から80km以内にある主な市町村)



章	節	項	修正前	修正後
1	6	4	(1)鉄 道 本市は、名古屋駅を中心に、……、地下鉄も整備されるなど鉄道網も発達している。 平成17年に実施した地下鉄交通量調査によると、11月17日時点の本市の地下鉄駅乗降人員合計は2,307,500人で、JR、名鉄、近鉄、地下鉄東山線等主要な鉄道の結節点となる名古屋が最も多く332,904人、次いで、地下鉄東山線及び名城線、名鉄瀬戸線の結節点となる栄が216,214人、以下、JR、名鉄、地下鉄名城線及び名港線の結節点となる金山が129,816人、地下鉄東山線及び鶴舞線の結節点となる伏見が100,829人となっている。 <u>なお、これら4つの駅が、国民保護法上の生活関連等施設に該当することになる。</u>	(1)鉄 道 本市は、名古屋駅を中心に、……、地下鉄も整備されるなど鉄道網も発達している。 平成17年に実施した地下鉄交通量調査によると、11月17日時点の本市の地下鉄駅乗降人員合計は2,307,500人で、JR、名鉄、近鉄、地下鉄東山線等主要な鉄道の結節点となる名古屋が最も多く332,904人、次いで、地下鉄東山線及び名城線、名鉄瀬戸線の結節点となる栄が216,214人、以下、JR、名鉄、地下鉄名城線及び名港線の結節点となる金山が129,816人、地下鉄東山線及び鶴舞線の結節点となる伏見が100,829人となっている。 <u>なお、これらの4つの地下鉄駅は、1日に10万人以上の乗降客がある駅として、生活関連等施設に含まれる。</u>